

令和４年度学校評価自己評価表（最終）									
	中期経営目標	短期経営目標	具体的な取組・方策	評価指標		実績値	目標値	評価 （自己評価の結果）	改善策
						令和３年度	令和４年度		
確かな学力	基礎・基本の確実な定着を図り，自ら考え，判断し，共に伝え合い行動することのできる児童の育成	基礎・基本の定着	○選択制家庭学習に取り組ませる。 ○授業の中で，習熟のドリル等に取り組ませる。	○江田島市学力調査全国平均点との比較 ○学期末テストの平均点 国語 読解力（思考・判断・表現） 言葉，漢字（知識・技能） 算数（思・判・表） 算数（知・技）		国 101 算 100 国（思）84.9 国（知）85.1 算（思）83.4 算（知）88.3	国 102 算 101 国（思）85.1 国（知）85.3 算（思）83.6 算（知）88.3	・江田島市学力調査の標準スコアを 100 としたとき，国語 99.4，算数 100.9 で，目標値を下回った。 ・国（思）87.0（＋1.9） 国（知）81.6（－3.7） 算（思）82.3（－1.3） 算（知）87.4（－0.9） 1 学期より上がっているが，国語の知識・技能，算数科の得点が低い。	・朝の学習時間に漢字小テストなど漢字の学習や算数科でつまずきのある内容の問題を中心に行う。また，書く活動を授業の中に取り入れる。 ・1～3 年は，一人一人の音読を聞く時間を設ける。4～6 年は，各教科の授業の中で音読の機会を増やす。読み間違いをその場で正す。 ・算数プリント，言葉のドリル等を継続して取り組む。
		授業力の向上	○自学と協働的な学びを組み合わせた授業づくりに取り組む。 ○教材研究と児童への働きかけについての研修を行う。	○自律的な学習意欲に関する意識調査（2 回） ○教員の働きかけ力の向上シートによる振り返り		— 上昇	上昇 上昇	・自律的な学習意欲に関する意識調査では，高学年における高まりがみられ，自学の取組の成果であると考えられる。 ・教員の働きかけ力向上シートの振り返り記述数（一人当たり数）の平均は，5 月 7.3，9 月 7.0，1 2 月 8.1 と上昇した。見取りと働きかけの力量形成がなされつつある。	・自学を進める一方で，その目的や意義の理解不足から実際の指導に差が見られる。その改善のため，理論的研修及び実践的で細かい手立てについての研修を行う。
豊かな心	自らを律し，他人を思いやり，夢や志に挑戦する児童の育成	規範意識の高揚とルールへの定着	○生活目標の取組を徹底する。 （あいさつ，返事・時間までに静かに集合・だまって掃除，言葉遣い） ・月ごとに目標を設定し，毎月，児童に自己評価させる。 ・学期ごとにあいさつについて相互評価させる。 ・全職員で随時，全児童の評価をしていく。	○教師と児童の見取りによる達成率	あいさつ，返事 時間までに静かに集合 言葉遣い だまって掃除 きれいに整頓	81% 76% 86% 91%	82% 77% 87% 92%	・「あいさつ，返事」・・・91% 「時間までに静かに集合」・・・89.5% 「言葉遣い」・・・87% 「黙って掃除，きれいに整頓」・・・91% ・委員会を中心とした生活目標を達成するための取組で多くの児童が目標を意識して生活することができた。 ・無言掃除は意識している班とそうでない班が見られる。	・生活委員会を中心とした活動は来年度も行っていく。他の委員会でも目標を達成するための取組ができる場合は行わせる。 ・あいさつ名人カードの配布を，教員がより積極的に行うことで，上手なあいさつを行うことのできる児童が増やす。 ・無言掃除についても教員が肯定的な評価をもたせていけるような取組を行う。
		自己肯定感・自己効力感の育成	○行事ごとに児童に目標をもたせるとともに，振り返りを行い，肯定的評価を行う。 （学活や帰りの会で互いのよさやがんばりを認め合う場を設定する。） ○各学年で，実感を伴う豊かな体験活動を推進する。 ○個の実態に応じた支援，指導を行う。	○児童の肯定的評価の割合（アンケート） ○不登校の報告件数	自己肯定感 自己効力感 昨年度との比較	82% 87% 4 名	83% 87% 減少	・「自己肯定感」・・・ 92% 「自己効力感」・・・ 93.6% 「不登校の件数」・・・2 件 ・「運動会」「学習発表会」「六年生を送る会」と学期ごとの行事に子どもたちが主体的に自分の役割に取り組み，達成感をもつことができた。	・行事での仕事に児童に役割を持たせることで，より自己肯定感・自己有用感を意識させる。 ・O V J（大古小児童ボランティア）活動を広げていくことで，自己肯定感や自己効力感をよりもたせる。
健やかな体	健康，安全への自己管理能力を高め主体的に自らの健康や体力の向上を図る児童の育成	体力・運動能力の向上	○体力の向上をめざして，体育の授業改善や全学年の体力向上運動の充実を図る。	○5 0 m 走において，体力・運動能力調査の全国平均を上回る児童の割合。 ○二分間走において，各学年で設定した目標値達成の割合		63% —	60% 75%	・50m 走において，体力・運動能力調査の全国平均を上回る児童の割合は 66.8% であり，目標値を上回った。 ・2 分間走において，各学年で設定した目標値達成の割合は 66.6% であり，目標値を下回った。	・今年度取り組んだ 2 分間走を継続して取り組み，体力の向上を図る。 ・体力向上のために，体育の授業の初めに縄跳びを行ったり，短い距離を全力で繰り返し走ったり，シャトルを投げたりする機会を増やす。 ・研修を行い，体力を高められる運動を教職員間で共有する。
		健康安全教育の推進	○学活・保健朝会・ミニ保健指導において，睡眠を中心とした保健指導を 5 回以上実施し，早寝の定着を図る。 ○年 3 回生活リズムウィークを設定して生活リズムカードを実施し，課題のある児童の個別指導を行い，保護者と連携した取組を行う	○生活リズムカードにおける「早寝・早起き・朝ごはん」3 項目のうち，「早寝」項目の全児童合計達成率		77.8%	78%	・身体測定時に「大切な睡眠」についてミニ保健指導をした。 ・学校薬剤師扇谷先生による「睡眠の大切さ」と題して保護者対象の教育講演会を実施した。 ・生活リズムカードで「早寝」3 回の合計達成率は 79.2% で目標値を達成することができた。しかし，生活リズムを確立できていない児童には今後も家庭と連携する必要がある。	・引き続き生活リズムの大切さを学級活動や保健ミニ指導で啓発する。 ・特に就寝時刻が遅い児童には養護教諭が個別に面談をする。
信頼される学校	積極的に情報を発信し，地域と一体となって子供を守り育てる環境づくりの推進	地域・保護者との連携の推進	○学校教育目標の具現化に向けた取組を保護者・地域とともに進め，児童・保護者・地域との信頼関係を築き，学校満足度を向上させる。 ○業務改善や働き方に関するアンケートを行うことで，当事者意識の醸成を促すとともに，業務の効率化に向けた組織的な取組を継続する。	○『学校通信』や『学級だより』等で，児童の様子や学校の取組がよく分かる。，「大古小学校の現状に満足している。」の項目に対する肯定的回答の割合 ○アンケート実施回数 業務改善実施件数		99% 92% 1 回 2 件	95% 93% 2 回 3 件	・学校づくり保護者アンケートの肯定的評価『学校通信』や『学級だより』等で，児童の様子や学校の取組がよく分かる。97% 大古小学校の現状に満足している。96% ・教職員アンケート 3 回実施（5・9・12 月）下半期の業務改善①勤務時間内に収まるよう会議時間を設定②定時退校日（水曜日）設定年間 5 件	・今回もアンケートによる保護者意識は目標値に達することができた。特に「大古小学校の現状に満足している。」の項目が 3 ポイント上昇した。今後も継続して，取組を進める。 ・アンケート項目「児童と直接関わる時間の確保」，「日々の業務の中での充実感」について「よく当てはまる」のポイントが上昇した。今後も，組織的に業務改善に取り組む。